

## 平成 23 年度日本コンクリート工学会第 2 回役員会 議事録

日 時：平成 24 年 3 月 7 日（水）

場 所：ホテルニューフロンティア（高松市） シンフォニールーム

出席者：氏家支部長，橋本幹事，古田幹事，吉田幹事，上田常任委員，大内浩之常任委員，川邊常任委員，橋高常任委員，下村常任委員，山本常任委員，松永常任委員，長尾常任委員，藤井常任委員，堀井常任委員，松並常任委員，森本常任委員，横井常任委員，横田常任委員，吉田常任委員，堺支部監事，甲斐本部理事，岡崎(四国支部事務局)

### 配付資料

- 23-2-0 平成 23 年度日本コンクリート工学会第 2 回役員会議事次第
- 23-2-1 平成 23 年度日本コンクリート工学会第 1 回役員会議事録(案)
- 23-2-2 支部役員会と支部総会について
- 23-2-3 JCI 四国支部平成 23 年度事業報告(案)・JCI 四国支部平成 24 年度役員名簿(案)，平成 23 年度収支決算(案)・平成 24 年度収支予算
- 23-2-4 「四国のコンクリート需要の将来予測に関する研究委員会」2011 年度活動報告
- 23-2-5 「フライアッシュコンクリートの耐久性評価研究委員会」2011 年度活動報告
- 23-2-6 「コンクリートの強度に及ぼす養生条件に関する研究委員会」2011 年度活動報告
- 23-2-7 JSCE341 委員会報告書および講習会に関する資料
- 23-2-8 「平成 23 年度生セミナー in 徳島」 & 「環境配慮型コンクリート構造物設置後の機能変化に関する調査研究委員会報告会」のご案内・生セミナー参加予定者一覧
- 23-2-9 平成 23 年度ダム工学会中国・四国地区現場見学会及び講演会開催のご案内
- 23-2-10 2011 年度コンクリート診断士講習会および試験のご案内
- 23-2-12 平成 24 年度事業計画
- 23-2-13 鉄筋コンクリート造耐震壁の開口の取り扱いに関する研究委員会設立概要報告
- 23-2-14 JCI 四国支部現場見学会(案)
- 23-2-15 残コン・戻りコン発生抑制及び有効利用に関する技術検討委員会報告会-参加募集-
- 23-2-16 2014 年次大会(高松)関連資料) ←資料番号が 2-13 となって重複していたため，23-2-16 に修正

### 審議事項

#### 1. 支部長挨拶

氏家支部長より，拡大幹事会開催にあたって挨拶が行われた。

#### 2. 平成 23 年度第 1 回拡大幹事会議事録確認

資料 2-1 に基づき，平成 23 年度第 1 回理事会議事録の説明が岡崎よりなされ，議事録案の承認がなされた。

#### 3. 支部役員会と支部総会について

支部役員会と支部総会について氏家支部長よりなされた。平成 24 年 4 月 27 日に支部役員会および支

部総会が催されることが承認された。なお、総会特別講演会においては、高知工科大学草柳教授にお願いすることが承認された。これまでの特別講演会費に、謝礼5万円と交通費実費が支払われていたが(今回も講演会費は5万円とする)、これでよいか本部に確認する必要があるとの指摘があった。

#### 4. 平成24年度四国支部役員について

資料23-2-2に基づき、平成24年度四国支部役員について氏家支部長よりなされた。甲斐四国支部理事の就任について説明がなされた。山本常任委員退任、新委員の就任が反映されていないとの指摘があった。また、横井常任委員によりホームページ上で24年度役員名簿のアップロードを行うことが承認された。

#### 5. 平成23年度事業報告書案および収支決算案

平成23年度事業報告書案について氏家支部長より説明がなされた。資料23-2-3に基づき、拡大幹事会、役員会、総会の開催について報告された。また、資料2-4、2-5、2-6に基づいて、四国のコンクリート需要の将来予測に関する研究委員会(委員長：大内雅博(高知工科大学))の活動は1年の延長のうち、計2年間の報告と委員会活動の終了の報告が氏家支部長よりなされた。フライアッシュコンクリートの耐久性評価研究委員会(委員長：上田隆雄(徳島大学))については、上田常任委員より説明がなされ、委員数、委員会開催状況、および現場見学会の開催について説明がなされた。コンクリートの強度に及ぼす養生条件に関する研究委員会(委員長：水越睦視(香川高等専門学校))の中間報告が氏家支部長よりなされた。

また、資料2-23-7に基づいてJSCE341委員会講習会の開催報告がなされた。収支がプラスとなったため、プラス分は主催である土木学会四国支部に納めることが承認された。なお、平成23年度生コンセミナーin徳島および参加予定者に関する情報と、環境配慮型コンクリート構造物設置後の機能変化に関する調査研究委員会報告会の概要が説明された。

見学会については、11/18に開催のダム工学会主催分は盛況に終わったが、11/18開催予定であった高知仁ノ海岸離岸堤工事見学会は応募者1名であったため、中止となったことが報告された。

続いて、技士・診断士試験についての報告、コンクリート教育への助成、ホームページ運営、会員数について説明がなされた。

また、平成23年度収支決算について氏家支部長より説明がなされた。本役員会出席予定の委員に欠席が出たため、役員会費に変更が必要なこと、研究委員会費に大内委員長主催研究委員会の委員会報告書印刷費を計上すること、事業費においては生コン講習会における書籍売り上げを収支に計上することが承認された。

#### 6. 平成24年度事業報告書案および収支決算案

平成24年度事業計画および収支予算案について氏家支部長より2-12に基づいて説明がなされた。研究委員会は継続中の2件に加え、資料2-13に示すように、甲斐常任委員を委員長とする、鉄筋コンクリート造耐震壁の開口の取り扱いに関する研究委員会が発足することが報告された。また、フライアッシュコンクリートの耐久性評価研究委員会については24年度も継続、コンクリートの強度に及ぼす養生条件に関する研究委員会についても実験を実施するなど24年度も継続することが報告され、承認された。

コンクリートのポンプ施工指針&高流動コンクリートの配合設計・施工指針発刊に関する講習会が、土木学会四国支部との共催で高松にて夏～秋頃開催することが確認された。また、生コンセミナーin愛

媛については、会場を愛媛大学とし、愛媛大学工学部環境建設工学科共催とすることで使用料を0円とすること、講師については資料 2-3-15 に示す残コン・戻りコン発生抑制及び有効利用に関する技術検討委員会報告会で報告された方を招聘することが話し合われた。また、コンクリート技術の研鑽会を開催することが報告された。コンクリート技術講習会の一日版であり、四国支部の学識経験者を中心に講師とするのがよいことを確認した。使用するテキストは1年前のものを使用し、年度早めの開催がよいであろうということが確認された。

本部関連行事として、コンクリート診断士講習会、技士・診断士試験について説明がなされ、24年度診断士講習会、診断士試験および技師試験が資料記述どおりの体制で実施されることが承認された。

見学会について森本委員より資料 23-2-14 に基づいて説明がなされた。南海地震をテーマに高知仁ノ海岸防波堤を見学場所とし、参加費を1000円・昼食付き、9月下旬の開催とすることが決定された。またタイトルに地震対策がイメージしやすい工夫が必要であることが指摘された。

コンクリート教育への助成については、多度津工業高校に決定した。

これまでの研究委員会報告書の残部の販売や、pdf化したファイルの販売について話し合われた。JCI 四国支部となってからの研究委員会の報告書の残部は支部事務局で保管し、販売する。ただし、残部が少ないものは pdf 化して、本部のホームページにおける会員専用サイトを利用する方法などが議論された。

## 7. その他

氏家支部長から会員増強について説明がなされた。卒業学生が退会しないような工夫が必要である。資料 2-16 に基づいて、2014 年次大会(高松)について説明がなされた。

以上